拝啓　今年も早や年末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年は、近所の公園のモミジの紅葉が特にきれいに感じました。モミジのきれいな場所を訪ね探しましたがその際、モミジの紅葉は、1月間ぐらいで、紅葉する他の落葉樹に比べて紅葉の時期がずっと長いこと、紅葉しても同じ木に緑の葉も残っており次第に全体が紅葉すること、太陽光線との関係で非常にきれいに見える位置があることなどに気が付きました。

今回は佐生健光さんの『キリスト教と称名』の第10回です。佐生さんが、旧約聖書、新約聖書の全巻を読んで、称名の箇所を書き写されましたが、実に多くの称名の箇所があげられています。「はじめに」のところに次のように書かれています。

「今回は、その称名の信仰が、人間の救いにとって不可欠な要因となっていることを、旧約、新約両聖書によって、立証しようとするものである。もとより、私は平凡な一信徒にすぎず、キリスト教の知識も浅く、神学も知らず、特別に聖霊を賜った経験もない。従って、それは分に過ぎたことであるのは、充分に分かっているつもりであるが、なぜか筆とる手を抑えることができない。後になって、この真理を余すところなく明らかにする人が出現するまで、もしこの拙文が小さなパイロットランプの役目を果たすことができるなら、望外の喜びとなる。」

「称名」が実に創世記の時期から、広く行われていたことが分かります。

今年は、新型コロナのために、活動が制約を受けましたが、8月に『小西芳之助の生涯』を教文館から出版することができたことは、大きな喜びでした。大勢の方から、手紙・はがき・メールで感想を頂きました。その中から、本誌読者の河内恵子さん（新潟県胎内市）から頂いた手紙の感想を要約して紹介させていただきます。

「「第1部　生涯」は、興味深いものでした。生い立ちが一貫して聖霊によって導かれており奇跡であります。酒枝先生のこともわかってよかったです。角田先生（母の恩師）の感想文（80頁）で「人生の意義如何に」の質問に、小西先生が「ただいま永遠の生命を生きる」と即答したことは、実に時空を超えた四次元の消息です。

「第2部　ローマ人の講解説教」は、小西先生の註解書や聖書をよく学んで理解していないと書けない部分です。山口周三様の信仰に敬服致します。〔　　〕の小見出しは適確でよかったです。おそらく聖霊によって書かされた本であると思います。

「第3部　同志会日誌語録より」は、素晴らしい宝玉のお言葉です。一貫して「聖書を死ぬまで離すな」「目の前の義務を熱心にやれ」と…直接聞かれた同志会の青年は奮起したことでしょう。「辛抱して時間を投資せよ」有難いお言葉です。

「第4部　恵心流キリスト教」は小西先生のクライマックスです。何度学んでも学びすぎることはありません。

どの部分も「生涯も註解」も、真理が圧縮されていて魂に浸透してきました。小西先生に出会って本当に神に感謝します。このような立派な本を出していただいて、山口周三様に感謝と敬意を表します。誠にありがとうございました。」

まことに過分な感想を頂きましたが、小西先生の信仰が、少しでも広く世の中の人に伝えることができればという思いから執筆いたしましたので、大変ありがたい感想です。

12 月 10 日（木）本誌読者の佐藤昭夫さんの運転する車で、山中湖の側の大平山（1295 m）にハイキングしてきました。上り 1 時間で頂上に立ち、ゆっくり昼食を取りながら、目の前の富士山をたっぷり見て、下山後は、山中湖村経営の「紅富士の湯」（温泉）で、ゆっくり温泉に入って、帰って来ました。この日は、一日中、富士山がはっきり見えており、本当にゆっくりくつろげて、良いハイキングの日でした。

「内村鑑三全集」の編集者の一人鈴木範久先生から、「内村鑑三交流辞典」（ちくま学芸文庫）を頂きました。その中に小西芳之助、石館守三が掲載されていました。その項をコピーしてお送りします。

新型コロナの流行が年末年始拡大の傾向にあります。どうぞ皆様ご注意されて、マスク、手洗い、うがいなどを励行されまして、お体には十分ご注意下さるよう、お祈り申し上げます。どうぞよいお年をお迎えください。

12 月 21 日　　山口周三

エンカウンターの読者各位